

レースっていいよね
第70回 「おいてきぼりにしたもの」 の巻

ラジオのゲストに、NATURAL が来た。
まあ、彼らの事はともかくとして、リスナーからの、彼らへの質問があった。

「日本食で好きなものは何ですか？」

この問いかけに、彼らはくちぐちに答えた。

「スシ」

「焼肉」

「お好み焼」

よくある光景である。

外国人はもとより、日本人でさえよく答えがちな、好きなメシの代表格だ。
このやり取りを聞いていて、私は疑問に思うことがある。

第2次大戦後、日本は「民族食」を失った、と、聞いたことがある。
なるほど、普段我々が口にする食事はどれを取ってみても「日本固有」という意味合いからすると、ずいぶん多国籍な料理が多い。

日々の食事で「純和食」である、というのは、おそらく有り得ない。
日本にいれば、巷には世界中の美味しいものがわんさと溢れているのだから。
いや、外食だけでなく、家庭料理にしたって同様だろう。

そして更に、前述の彼らが答えた食事。

なぜか、ジャンクフードの匂いばかりがするのはなぜだろう？

勿論、世界的アイドルの彼等のことである、スシ・・・といっても、クルクル回っている
箸も無く、焼肉にしたって、食べ放題の¥1980 では決して無い箸である。

しかし、それを差し引いても、紋切り型の「スシ・焼肉」という解答には、なぜか
チープ感を禁じ得ないのである。
それは食事の料金によるのではなく、無数に繰り返され答えられてきたであろう
浅はかな「イメージ」がそう感じさせるのだ。日本には、他にもっと何か無いのか？
と、考えずにいられないのである。

無論、スシも焼肉も、お好み焼も、カレーライスも、全て日本の国民食であることは
言うまでもない事実だ。しかし「国民食」と「民族食」というのは、違うのではないか？

いや、先ほどは 浅はか などと記述したが、じゃあ、他に日本が誇れる、間違いのない
「民族食」とは何か？ と聞かれて即答できない自分自身が最も浅はかなのかもしれない。
むしろ、来客をもてなすのに、特に海外からのゲストに喜ばれる食事は「スシ・焼肉」
以外にはないのではないのか？

また、彼等もハナから、日本固有の食事などに興味があるはずもなく、ただ美味しいもの
であれば良いハナシで、また、ビジュアル的、イベント的にも「スシ・焼肉」は
もてなす方、もてなされる方、双方にとって都合が良いのではないのか・・・。

それにしても、不思議に思うことがある。

世界中のあらゆる食材、料理が日本にやって来ている。
それらは、勿論、日本人のクチに合うよう、手直しはあるかもしれないが、極力オリジナルの空気を壊さぬように振舞われている。
日本でクチにする、各国料理はたいてい「似て非なるもの」ではない。

ところが、日本から海外へ輸出された料理は、随分と、オリジナリティーを失っている。
最もそれを顕著に見受けられるのは アメリカ においてであるが。
例えば、「TERIYAKI」という食べ物は、名前こそ「照り焼き」ではあるものの明らかにジャンクフードだ。「似て非なるもの」なのである。
多分「カリフォルニア巻き」というレシピも、こういう背景によって生まれてきたのだろう。

美味しいものは国境を越える。
しかし、よその人々は「味」という、自国のプライドを結構、頑なに守っているのに対し我々は変化に何と寛容なことだろう。

いや、他の良い所を融合させ、自国のものにする、というのが、日本文化というもの。
・・・なのだろうか。食文化も、それ以外の全ての文化も。
そもそも「民族食」とは、何を定義にして決めれば良いのだ？

難しいコトはさて置き。

海外から来た客人に、私は言いたいことがある。
たしかに、スシも焼肉も美味しい。
日本の料理とは何か？ という問いにも即座に私は答えられない。
抽象的に「たいしたもの」「焼いたもの」「あえたもの」としか言えない。

ただ、懐石料理を食べると、いつも日本の食事の素晴らしさに気付かされる。
それは「もてなす心」の究極のカタチ、であるからだ。

食事を、見て愉しみ、触れて愉しみ、香りを愉しみ、味を愉しみ、器にさえも何かしらの意味付けを与える。
それらを 演出 と呼んでいいのかわからないけれど、とにかく食す人に喜ばれることを大前提として、あらゆる手腕を用いて工夫する努力。
これこそが、世界に誇れる日本の食文化、ではないのだろうか。

どうか、日本に来る客人よ、この日本の心も一緒に食して欲しい。
美味しいものは美味しい。無論、それで良い。
そう感じてもらえる事こそ、その食事を提供したヒトの心、そのものなのだから。

しかし、わからない。
自分自身、もしも誰かを食事に連れて行くとき、たぶん「スシ・焼肉」を選びそうな気がする。安易である、と知りながら。
コンビニで「エサ」を買い、カップ麺を食らっているうちに、いつの間にか重要な何かを忘れてしまったのだろうか。
それは、何処に置いて来てしまったのだろうか。
分からない。



[GO TO TOP PAGE](#)